

有色素米系統「滋賀紫糯 70 号」・「滋賀紫 71 号」・「滋賀赤 72 号」の育成			
【要約】 本県に適した有色素米系統として、もちの紫黒米「滋賀紫糯 70 号」、うるちの紫黒米「滋賀紫 71 号」および赤米の「滋賀赤 72 号」を育成した。			
農業技術振興センター・栽培研究部・作物担当		【実施期間】 平成 11 年度～平成 20 年度	
【部会】 農産	【分野】 高品質化技術	【予算区分】 県単	【成果分類】 研究

【背景・ねらい】

水田作の経営環境が厳しさを増すなかで、需要・販路拡大を図る品目のひとつとして、県内各地でも有色素米の生産が行われている。しかし、現在、作付けされている有色素米品種は、本県内では玄米での着色にムラが生じやすく、商品価値を損なうリスクが大きい。ため、必ずしも本県に適しているとはいえない。そこで、玄米の着色が安定して良好で、本県に適した有色素米系統として、もちの紫黒米「滋賀紫糯 70 号」、うるちの紫黒米「滋賀紫 71 号」、うるちの赤米「滋賀赤 72 号」を育成した。

【成果の内容・特徴】

- ①「滋賀紫糯 70 号」は、1999 年に「朝紫」（もち性の紫黒米品種）を父、「ゆめおうみ」を母として人工交配を行い、その後代より育成した晩生熟期の系統である。葉身・葉鞘の縁部の大部分、表面ではかすり状に紫色を呈し、芒は紫黒色で長いものを多く生じる。短強稈で倒伏しにくい。もちの紫黒米で、玄米の着色ムラが少なく、外観品質は良好である（表 1、図 1）。なお、2008 年度の世代はF₁₂である。
- ②「滋賀紫 71 号」は、1999 年に「朝紫」を父、「ゆめおうみ」を母として人工交配を行い、その後代より育成した中生の晩熟期の系統である。葉身・葉鞘の縁部の大部分、表面ではかすり状に紫色を呈する。短強稈で倒伏しにくい。うるちの紫黒米で、玄米の着色ムラが極めて少なく、外観品質は良好である（表 1、図 1）。なお、2008 年度の世代はF₁₁である。
- ③「滋賀赤 72 号」は、1999 年に「ベニロマン」（うるち性の赤米品種）を父、「ゆめおうみ」を母として人工交配を行い、その後代より育成した中生の早熟期の系統である。生育期間を通じて、葉身・葉鞘での赤色の呈色はないが、芒は赤色で長いものを多く生じる。短強稈で倒伏しにくい。うるちの赤米で、玄米着色のムラは極めて少なく、外観品質は良好である（表 1、図 1）。なお、2008 年度の世代はF₁₀である。

【成果の活用面・留意点】

- ①「滋賀紫糯 70 号」・「滋賀赤 72 号」は、それぞれ紫黒色・赤色の長い芒を多く生じることから、中山間部において獣害対策品種や景観作物としての活用も考えられる。
- ②収量は、いずれの系統とも「日本晴」と比べると 2～3 割少ない。
- ③有色素米の栽培は、一般米への混入を避けるため、周辺ほ場への花粉飛散・苗の流出の防止、漏生籾からの裸地（自然）生えの抜き取り、収穫・調製作業における機械の清掃徹底など細心の注意が必要である。
- ④場内および現地での調査を継続し、より詳細な特性の把握に努める。

[具体的データ]

表1 特性概要

品種名または系統名	もち	うるち		うるち	もち
	滋賀紫糯70号	滋賀紫71号	滋賀赤72号	標)日本晴	比)朝紫
熟期	晩生	中生の晩	中生の早	中生の晩	極早生
出穂期(月.日)	8.15	8.10	8.6	8.12	7.27
成熟期(月.日)	9.24	9.17	9.9	9.17	8.29
稈長(cm)	76	77	73	88	82
穂長(cm)	21.5	19.9	19.5	20.3	19.7
穂数(本/m ²)	416	409	458	452	307
倒伏程度(0-5)	0.1	0.3	0.3	1.4	0.3
葉いもち	中強	中	中強	中	強
穂いもち	中	中強	中	中	弱
穂発芽性	中難	中	難	中	中易
葉身・葉鞘での着色	微紫	微紫	無	無	微紫
芒の色・多少・長短	紫黒・甚・長	紫黒・中多・中長	赤・甚・長	黄白・中・中	紫黒・微・極短
精玄米重(kg/a)	48.8	53.2	51.4	66.2	48.5
同上比率(%)	74	80	78	100	73
玄米千粒重(g)	20.6	21.3	21.0	22.3	20.6
玄米の色	紫黒	紫黒	赤	-	紫黒
着色ムラ(0-5) ¹⁾	1.3	0.9	0.9	-	3.4
調査年次	2005~2008年				
調査場所	農業技術振興センター(安土町大中)				

1) 数値が大きいほど着色不完全な粒が多い。



図2 玄米の比較

[その他]

・研究課題名

大課題名：消費者等の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

小課題名：水稻・麦類・大豆品種改良および栽培試験

・研究担当者名：

吉田貴宏 (H11~H20)、中川淳也 (H11~H20)

・その他特記事項：